



1月に開催された昭和のくらしを紹介する企画展で解説する金井館長

過去から未来へ

モノと物語を引き継ぐために――

博物館といえば、一般的にモノが展示されている場所という印象が強いと思いますが、その裏側には地道な収集と研究が存在しています。優雅に泳ぐ白鳥が、目に見えない水面下で必死に水をかいているのと同じように、博物館で魅力的な展示がなされるためには、目に見えない日々の努力の積み重ねがあるのです。

調査研究あつての展示

博物館とえば、一般的にモノが展示されている場所という印象が強いと思いますが、その裏側には地道な収集と研究が存在しています。優雅に泳ぐ白鳥が、目に見えない水面下で必死に水をかいているのと同じように、博物館で魅力的な展示がなされるためには、目に見えない日々の努力の積み重ねがあるのです。



金井 忠夫氏 那須野が原博物館 館長

モノがなければ博物館ではない

先人から受け継いだモノとそれにつわる物語を、次の時代の人たちへ引き継ぐこと。これが博物館が果たすべき最も重要な使命だと考えています。だからこそ、時の流れとともに風化してしまう貴重なモノを、博物館が収集し保存していく必要があるのです。博物館に収蔵されたモノはいわば公共の資産。将来を見据えて計画を立てながら地域の特徴的なモノを収集していき、社会があまりに急速に変化するために、収集が追い付かないのが現状です。

また、モノやその周辺の情報を調べ、明らかにすることも博物館の役割の一つ。例えば、昔の生活用具をはじめとする民俗資料などは、だれがいつ、

西那須野町郷土資料館時代から学芸員としてこの地域を見つめてきた金井館長。博物館の使命や担うべき役割について話を聞いた。



次の世代に遺産を引き継ぐ

地域の総合博物館として平成16年にオープンした那須野が原博物館。博物館といえば「モノが展示されている場所」というイメージが強いが、博物館の役割はそれだけではない。これから地域の博物館のあり方を探っていきたい。

博物館が担う使命

那須野が原博物館は県内で唯一市町が独自で設置している総合博物館である。総合博物館とは、歴史・民俗・考古・文学などの人文分野と、地質・動物・植物などの自然分野の両方を取り扱う博物館のこと。平成5年に前身である西那須野町郷土資料館が焼失した後に、この地域に総合博物館を設けたいという市民の機運が醸成。平成16年に晴れてこの地域に総合博物館がオープンした。

標高差に富む地形が織りなす多様性に富んだ自然。その自然の中で生きるために少しずつ育まれてきた人の文化。それらは、複雑に絡み合いながら、現在の私たちの生活に空気のように息づいている。

「自然対「人間」という構図で捉えるのではなく、自然の中に人間がいるという視点。この博物館が探求しているのは、那須野が原という大地を舞台に繰り広げられる自然と人の営みの全てだ。この地域がまだ海の底だった時代から現代に到るまでの全ての時の記憶を掘り起こし、次の世代に引き継ぎようとする博物館の挑戦に終わりは無い。

市民の後押しを受けて設置された地域型総合博物館。普段は語られることのない博物館の裏側に少し光を当ててみる。

学校支援ボランティアとして35年の長きにわたり活動する「石ぐら会」。会長を務める若月氏がこれからの博物館に期待する事とは…

知的好奇心を満たす場所

私にとつての博物館は、自分が知らない世界を見せてくれる場所。いつも知的好奇心を刺激してくれます。私は、退職後に埼玉県から那須塩原市に移住してきましたが、以前は、東京の博物館を巡るのが好きで、頻りに足を運んでいましたね。

13年前に那須野が原博物館を始め知ったとき、地方にもこんな素晴らしい博物館があるんだと正直驚きました。郷土資料館は各地にあります。郷土資料館は各地にあります。郷土資料館は各地にあります。郷土資料館は各地にあります。郷土資料館は各地にあります。

今では生きがいの場所に

また、博物館を中心に多くの自主団体が活動しているのも魅力の一つで、私も学校支援ボランティア「石ぐら会」で活動しています。博物館を授業で訪れる子どもたちに展示を解説したり、週末の親子体験チャレンジで昔のおもちゃの作り方を教えたりと非常に充実した生活です。今や博物館は「私の第二の

魅力的な博物館 課題は発信力――

「仕事場」みたいな感覚で、自分のやりたいことができる場所になっています。

まずは知ってもらうこと

活動をしていく中で、博物館の「発信力」不足を感じることがありました。親子体験チャレンジも一昨年末までは定員に達しなかった回もありましたが、募集案内の配布方法を変更したことで今では毎回満員です。せっかく素晴らしい活動をしているのに、知ってもらわなければ宝の持ち腐れ。広報活動を工夫し、いろんな人に知ってもらうことで、博物館の価値はさらに高まると思っています。



若月 延雄氏 石ぐら会 会長



①同じ種が整列されたチョウの標本。②トンボの標本は翅を閉じた状態で保存される。③棚に丁寧に平積みされた植物標本。①～③の一つ一つに採集日と場所、採集者が記載され、地域の生物の生息状況を示す貴重な証拠となっている。④古文書などは中性の紙と箱に包まれて、一つ一つ小分けに保存されている。⑤特別収蔵庫は木製の棚となっており、より厳格な温湿度管理が必要な品々が収蔵されている。